

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立東井高野小学校

令和8年3月

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校の教育目標「豊かな心を育み、自らの能力を伸ばすたくましい子どもを育てる。」を達成する前提として、学校が児童にとって「楽しい」と感じることができる場である必要がある。しかし毎年、8%程度の児童が「楽しい」と感じておらず、今日的課題であるいじめや不登校問題とも密接に関係していると考えられる。家庭や関係諸機関との連携も含め、学校全体の課題として取組をすすめる必要がある。
- 規範意識や自己有用感の醸成、他者の尊重や将来を見据えた自己イメージの獲得のためには欠点も含めて「自分のことが好き」という自己肯定感が前提条件となる。約15%の児童が自己肯定感をもてずに学校生活を送っていることは課題であり、豊かな体験を通して一人ひとりの良さを伸ばす取組をする必要がある。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果の標準化得点では95～105ポイントの中で推移し、また、全国学力・学習状況調査でも全国平均とは開きがあり、学習内容の定着、基礎・基本の定着に課題があることがわかる。家庭とも連携して自主学習の確立や読書活動を充実していく必要がある。また、各種学力調査においても無回答率が高く、学習に対して無関心や自分ごととして取り組めていない児童が少なくない。そこで、学習への参加感を伴った「わかる」授業を積み重ねることで、学習に対する意欲や関心を高めることが大切であると考ええる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点では男女とも全国平均を上回っている。これまでの体育科学習の積み重ねの成果と考えられる。また、広い運動場や一部の芝生化など、これらを活用して日頃から遊び・運動に親しむ機会が多いことと、地域での活動が功を奏している。一方で運動が好きな児童とそうでない児童の二極化もみられ、それらが課題として考えられる。
- 教育活動にICT機器を導入し授業や学校活動に活用してきた。さらに一人一台端末を学習や生活指導に積極的に使用している。しかし、ICT機器と一人一台端末を連携しての有効的な活用方法や使用方法、情報モラルなどに課題があり、今後は、より良い活用の場を構築することが必要である。
- 学校が日常の取組を着実に推進する中で、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間の確保が課題である。そのためには教職員の長時間勤務の解消をはじめ、学校業務の精選をはじめとした「働く範囲」の明確化と、教職員が「働きがい」を感じられる取組をすすめる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 59.6%)以上にする。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 73.9%)以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。
- 令和7年度末の校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査 100%)水準を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 59.6%)以上にする。
- 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 73.9%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査 100%)水準を維持する。

3 中期及び本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合は91.6%であり、年々割合が高くなり100%に近づくことができた。
 - 大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は85.4%であり、中期目標(87.3%)を上回ることができなかった。
- 中期(年度)目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標の通り達成できなかった項目もあり、今後もさらに推進していくことが望まれる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査(1月)における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、年々割合が高くなり100%に近づくことができた。
 - 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は43.0%で、中期目標(59.6%以上)を下回った。
 - 大阪市小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は71.5%で、中期目標(73.9%以上)を下回った。
 - 校内調査(1月)における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、中期目標(98.5%)水準を維持することができた。
 - 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は80.4%であり、中期目標(95.5%)を下回った。
 - 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、中期目標(96.9%)水準を維持することができた。
- 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標の通り達成できなかった項目もあり、児童の学力や学習意欲の向上、健康や体力の保持増進のためさらなる充実を図っていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65.2%(令和8年1月末まで)であり、中期目標を下回っている。3月末において中期目標を上回るようにしていく。
 - 校務の整理と日常業務の精選を図ることで、教職員の時間外勤務時間が昨年度より短くなった。また、教職員に計画的に休暇等を取得するように声かけするとともに、休暇を取得した教職員の支援体制を組織的に行うことで、有給休暇等を取得しやすい環境を整えることができた。夏季休業の閉庁日については10日、冬季休業の閉庁日については3日設定し、実施することができ中期目標を達成した。
 - 大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合は100%であり、目標を達成した。
- 中期(年度)目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標の通り達成できなかった項目もあり、今後もさらに推進していくことが望まれる。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【安全・安心な教育の推進】 ○大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。 ○大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 87.3%)以上にする。 | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
| 取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 職員全体でいじめの早期発見や、不登校傾向にある児童についての共通理解に努める。また、関係児童への細やかな対応・配慮を行えるよう、学校全体で指導・支援体制を整える。 (いじめへの対応) (不登校への対応) | B |
| 指標 「心の天気」を毎日実施し、「相談機能」を含めて複数の職員で確認し、児童の心の変化に素早く対応できるようにする。また、これらの情報を「アセス調査の結果」などとともに共有し、個に応じた指導・支援方法の手立てを組織として考え、共通理解する生活指導報告会を、毎学期複数回実施する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 災害など緊急事態において、自らの命を守るための避難行動をとることができるよう、目的意識をもった防災教育を推進し、防災への意識を高める。 (安全教育の推進) | B |
| 指標 火災・防犯・地震・津波を想定した避難訓練を年間3回、引き渡し訓練を1回実施する。各訓練の前後には、自分たちができることについて考える時間を設ける。また、各教科等で、災害や防災に関係する学習を行う際には、各クラスで児童の発達段階(学年)に応じて、自助、共助、公助についての話をする。 | |
| 取組内容③【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 児童会行事の充実、児童のたてわり(異学年交流)活動の充実を図り、児童にとって楽しい学校生活ができるようにする。 (不登校への対応) | A |
| 指標 ・児童会を中心に、児童会行事やたて割り活動の際に、がんばったことや良いことを褒めて自己肯定感を高めるフィードバックを行う。 ・全学年が関わるイベントを3つ以上行う。また、全学年が学年間の交流を1回以上行う。 | |
| 取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。また、学校行事の全国的な傾向を把握し、新しい知見を教育活動に反映できるようにする。これらの取り組みを通して、児童が将来の夢や目標、自己有用感を持つとともに自他を尊重する心を育む。 (キャリア教育の充実) | B |
| 指標 校長経営戦略予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を、全学年で年間複数回実施する。また、学期ごとや行事ごとにキャリアパスポートや振り返りシートを活用し、自己の成長を振り返る機会とする。 | |
| 取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、発達段階に応じた系統的な人権教育を実践し、児童が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。 (人権を尊重する教育の推進) | B |
| 指標 人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを学期に1回以上行い、年度末に成果と課題を共有する。 | |
| 取組内容⑥【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、全児童の参加感を高めることで、自他の尊重を育み、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。 (インクルーシブ教育の推進) | B |
| 指標 校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対する肯定的に回答する児童の割合 100%を目指す。 | |

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

中期目標（年度目標）

○大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合は91.6%であった。

○大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は85.4%であり、目標(87.3%)を上回ることができなかった。

取組内容①「心の天気」を毎日入力させ、複数の職員で確認することで、児童の心の変化について共有することができた。ただ、児童の入力状況に個人差がみられた。また、本年度はアセス調査は行わなかったが生活指導報告会などを通して、いじめ事案がないか確認したり、いじめアンケートの事後対応を共有したりすることで、個に応じた支援・指導方法を職員全体で共有することができた。

取組内容②火災・防犯・地震津波・引き渡しと各種訓練を計画通りに実施することができた。訓練前には、学級担任が話をしたり、補助資料を活用したりして、訓練時の約束や訓練の意義などについて事前に学習することができた。また、自助・公助・共助について、学年に応じて話をすることで、防災意識を高めることができた。

取組内容③児童会活動の充実として、集会委員会を中心にたてわり班活動による児童集会を定期的実施した。また、児童会を中心にした活動（開会式・閉会式・〇〇運動・スローガン決め・仲良しウィーク・子どもフェスティバル・全校遠足・東小たてわりグランプリ等）を行い、学校全体を盛り上げていく活動を進めることができ、児童にとって楽しい学校生活を送る一つの手助けとなった。異学年交流も各学年複数回行うことができた。また、リーダーを中心に頑張ったことが褒められる機会も多く作れた。

取組内容④年度当初に計画していた、年間複数回の遠足・社会見学などの校外学習を、全学年計画通り実施することができた。また、必要に応じて、ゲストティーチャーを招聘した授業も実施した。運動会と2学期末のキャリアパスポートでの振り返りも実施し、児童が自己の成長を振り返る機会となった。

取組内容⑤人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを計画通り行えた。また、年度末には、学年ごとの取り組みの成果と課題について共有を図ることができた。『人権』というものについて考え、人権に関する標語を作るという経験もすることができた。

『いじめについて考える日』には、朝会で話を聞いたり人権に関する動画を見たりして、全学年児童が、いじめというものに対しての自分の思いを書いた。それにより、人権意識を高めることができた。

取組内容⑥校内調査（1月）における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、中間評価の87.8%を上回り、91.4%であった。学校全体での児童会活動や、各学級でのグループ活動など、児童一人ひとりの参加感を高めることができた。また、各学級での自己肯定感を高める取り組み(いいところ見つけや全員スピーチなど)の成果が出ている。

今後の学校運営への改善点

中期目標（年度目標）

- 次年度も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 次年度も取組を継続することを通して、児童の自己肯定感が高まるよう教育活動を推進する。

取組内容①生活指導全体会などを通して、心の天気や相談機能などをもとに、次年度も個に応じた支援・指導方法の手立てを組織として考え、エビデンスを基にした児童理解を職員全体で共有していく。心の天気の入力については、これからも声かけを継続して行うことや、ポップアップ機能を使うことで、全児童が朝の入力をルーティンとできるようにしていく。

取組内容②訓練を通して学習したことをワークシートに書いたり、学年に応じた動画資料を活用し理解を深められるようにしたりすることはできていたが、各学年の取り組みの発表や掲示等を行うことで、児童の防災意識をさらに高めていく。

取組内容③次年度も、児童会活動を活発にさせ、たてわり班による活動を通して、異学年間の交流の場を設け、高学年児童が低学年児童を労わったり助けたりすることで自己肯定感を高め、低学年児童はそのような高学年の姿に接することで、高学年に向けて、“自分もこうなりたい”という自己肯定感を高める機会とする。次年度も、全学年が関わるイベントを通して、一人ひとりの自己肯定感や自尊感情を高めていく。また、異学年交流については、児童会で計画したり、各学年が主体で実施したりと様々だったので、系統立てて計画的に進めていけるように組織していく。

取組内容④次年度も、遠足・社会見学などの校外学習や、ゲストティーチャー招聘授業などの豊かな心を育む取り組みを計画・実施していく。これらのことを通して、児童が自己有用感を高めたり、将来への夢や希望を獲得したりする中で、自らのキャリアを考える機会としていく。

取組内容⑤引き続き、日ごろからの人権意識をもつことができるよう、系統的な実践を行っていく。

取組内容⑥目標とする子ども像をもち、学校全体で『いいところ見つけ』のような取り組みを行うなど、異学年同士でも良さを共有し、自己肯定感が高まるような取り組みをしていくことも考えていく。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合100%をめざす。</p> <p>○大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 59.6%)以上にする。</p> <p>○大阪市小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 73.9%)以上にする。</p> <p>○校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。</p> <p>○校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。</p> <p>○校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。</p> | B |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | 達成状況 |
| <p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内研究において、昨年度までの研究を活かした「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあて、授業の充実と改善を図る。 (言語活動・理数教育の充実) (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 研究主題『共に「わかる」・「できる」・「楽しい」を実感できる授業づくり』に迫るために、各部で計画を立て、教職員一人ひとりが実践、検証、修正を行い、取り組んでいく。月1回以上部会を開き、進捗状況を確認して研究を進めていく。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>さまざまな学習の中で、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流を取り入れ、児童の参加感を大切に授業づくりを計画的に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 言語力を活かした対話と交流をするために、各教科の年間指導計画をもとに、学習したことを活用できる場を設定し、年間に1回以上取り組む。</p> | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科のモジュール学習で視写に取り組み、書く力へとつながる基礎を培う。 (言語活動・理数教育の充実)</p> <p>指標 国語科のモジュール学習を週1回実施する。また、決められた時間で視写ができる量を増やす。</p> | B |
| <p>取組内容④【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業で学習したことを振り返ったり深めたりするために、引き続きプラスノートを活用し、家庭学習の習慣へとつなげる。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童を前年度(昨年度同調査 92.3%)水準を維持する。</p> | B |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>運動に親しむ機会を設けたり、用具の充実を図ったりして、進んで体力づくりに取り組めるようにする。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標 運動委員会と代表委員会が連携して、学期に1回体を動かす活動を計画し、実施する。また、遊びの紹介をすることによって遊びのレパートリーを増やし、外遊びを充実させる。</p> | B |
| <p>取組内容⑥【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>手洗いや、ハンカチを身につける習慣がつくよう強調週間を設定し、健康保持に対する意識を高める。 (健康教育・食育の推進)</p> <p>指標 保健美化委員会が中心となり活動する強調週間は年複数回実施することで、健康保持に対する意識を高める。</p> | B |
| <p>取組内容⑦【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>朝ごはんの大切さを知り、朝ごはんを食べると生活リズムが整うことや、一日の活動への充実につながることを理解する。 (健康教育・食育の推進)</p> <p>指標 朝ごはんの大切さについての健康教育、食に関する指導を年間1回以上する。さらに、通信を年間1回以上発行し家庭への啓発を行う。</p> | B |

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

中期目標（年度目標）

- 校内調査（1月）における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、中間評価（10月実施）の91.4%より向上している。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は43.0%で、目標(59.6%以上)を下回った。
- 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は71.5%で、目標(73.9%以上)を下回った。
- 校内調査（1月）における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、前年度同調査（98.5%）を維持することができた。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は80.4%であり、前年度同調査（95.5%）を下回る結果となった。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.3%であり、前年度同調査（96.9%）水準を維持することができた。

取組内容①研究テーマ・目標に向けて、各学年部での研究を計画通り行うことができた。各部で立てた計画をもとに、教職員一人ひとりが実践、検証、修正を行い、取り組んでいくことができた。月1回以上部会を開き、進捗状況についての話し合いや部内研修を行った。また、学年部ごとに年1回以上公開授業を行い、部会ごとに研究してきたことや学びを教職員全体に広げることができた。さらに、教職員全体で研究中間発表会(中間)・研究発表会(年度末)を実施し、各学年部の成果と課題について交流・共有を図ることができた。

取組内容②言語力を活かした対話と交流をするために、各学級でグループ活動や全体交流を積極的に取り入れることができた。また、発表や掲示物を通しての交流など、学習したことを活用する場を設定し、年に1回以上取り組むことができた。

取組内容③国語科のモジュール学習を週1回実施した。モジュール学習で取り組んだ視写では、めあてや進め方を共通理解した上で始め、決められた時間で丁寧に書くことを通して、書く力の育成に努めた。児童は、他の書く活動への抵抗も少なくなり、前向きさが見られるようになってきたため、積み重ねが活かされているように感じた。

取組内容④校内調査（1月）における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は86.7%と前年度同調査（92.3%）を下回った。しかし、各学級で自主学習ノート(プラスノート)の取り組みを継続して行い、習慣となっている姿が見られる。学習の内容を紹介し合い、交流することで、取り組む内容や進め方を自分で考えて行うことができるようになってきている。

取組内容⑤運動委員会と代表委員会が連携して、学期に1回体を動かす活動を計画し、実施した。ペア学年での遊びやドッジビーFESなどを開催したことで、運動に親しむ機会を設け、体力作りに取り組む活動ができた。

取組内容⑥強調週間を学期に1回、年間3回実施することができた。保健美化委員会が中心となって行っている手洗い週間や手洗いフェス、そしてクラスでの目標作成などによって正しい手洗いや健康保持に対する意識は高まっている。正しい手洗いの意識は高まっていたが、ハンカチを身につけている児童は多くなかった。

取組内容⑦校内調査（1月）における「朝ごはんを毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は97.3%と高水準であった。年間1回以上の健康教育や食に関する指導、通信を通しての家庭への啓発を行ったので朝ごはんの大切さの理解につながった。また、給食の月目標を献立と掲示することで、目標を見る機会が増え、意識することにつながった。

今後の学校運営への改善点

中期目標（年度目標）

- 次年度も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 次年度も対話や交流のある学習を、継続して行っていく必要がある。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 【取組内容⑥】参照
- 【取組内容⑥】参照
- 次年度も継続指導する。

取組内容①全体共有した各部での研究の成果を、それぞれの学年・学級で取り入れていき、学校全体で指導力を高め合っていけるようにする。有意義な研修となるよう、次年度も、部内研修や公開授業を計画通り行っていく。

取組内容②言語力を活かした対話と交流については、次年度も様々な教科で活用する場をつくっていけるようにし、さらに話し合いの力を高めていけるようにする。

取組内容③引き続き、書く力の向上に向けて、視写などの継続的に行える学習に取り組んでいく。

取組内容④引き続き、プラスノートの活用を週1回以上行い、自主学習に取り組むという習慣が身につくようにしていく。

取組内容⑤異学年交流の機会を増やし、進んで運動に取り組める活動を増やす。自学年、自クラスでの遊びだと、遊び内容がマンネリ化する傾向にあるので、他クラス、他学年と交流をもち、遊ぶ種目や遊びの内容にも変化をもたせたい。また、体育科の時間などで、子どもたちに達成感を味わわせるような活動を多く取り入れる必要がある。

取組内容⑥手洗いについては、次年度も取り組みを継続していく。ハンカチを身につけることについては、強調週間やハンカチチェックデーを効果的に活用して、意識を強く持たせたい。特に、毎週火曜日のハンカチチェックデーの活動内容をより具体化し、ハンカチチェックに重点を置くようにする。

取組内容⑦次年度も取り組みを継続していく。また、次年度は、放送や給食委員の呼びかけなどで、さらに給食の月目標を意識できるようにしたい。

大阪市立東井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。</p> <p>○「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。</p> <p>○大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を前年度(昨年度同調査100%)水準で維持する。</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX(デジタルフォーメーション)の推進】</p> <p>系統的なプログラミング学習に取り組めるように、指導案の充実と見直しを図る。また、タイピングや電子新聞など、学習者用端末を活用する取り組みの充実を図る。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 各学年、年間に1つ以上のプログラミング学習や学習者用端末を活用した取り組みを行う。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校務分掌の見直しによる校務の整理や、配布物を始めとした日常業務の精選などを通して、勤務時間内に業務を完遂できるようにする。(働き方改革の推進)(教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標 年次有給休暇を8割以上の教職員が10日以上取得したり、夏季・冬季休業日の閉庁日を3日以上設定したりすることを通して、働きやすい業務環境を整える。</p> | A |
| <p>取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】</p> <p>図書館補助員や図書ボランティアと連携し、学校図書館が落ち着いて読書を行うことができる安らぎの場、そして、開かれた学びの場となるよう環境を整える。また、読書週間等にも一緒に取り組み、内容の充実を図る。さらに読書カードを活用し、児童の読書活動の交流を行う。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)</p> <p>指標 各学期ごとの読書週間について、図書館補助員や図書ボランティアと計画を共有し、一緒に取り組み、児童の読書への意欲を高める。</p> | B |
| <p>取組内容④【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】</p> <p>学習内容に応じて、学校図書館の本を活用し、調べ学習に取り組む。必要に応じて、市立図書館と連携し、団体貸出などを利用する。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)</p> <p>指標 学校図書館やその蔵書を活用した授業を年1回以上行う。また、読書タイムなど、毎週1回以上、本に親しむ時間をつくる。</p> | B |

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

中期目標（年度目標）

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65.2%（令和8年1月末まで）であり、目標を下回っている。

○【取組内容②】参照

○大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合は100%であり、目標を達成した。

取組内容①タイピングや電子読書など、学習者用端末を活用した取り組みについては、朝の学習の時間や雨天時の休み時間などに行うことができた。特に、タイピングを続けたことは、学習者用端末を使った調べ学習などの力として成果が出ている。プログラミング学習では、外部講師と連携して計画し、ロボット教材を導入した。そして、教職員間で研修を行い、年間1つ以上のプログラミング学習の授業を系統的に実施することができた。

取組内容②校務の整理と日常業務の精選を図ることで、教職員の時間外勤務時間が昨年度より短くなった。また、教職員に計画的に休暇等を取得するように声かけするとともに、休暇を取得した教職員の支援体制を組織的に行うことで、有給休暇等を取得しやすい環境を整えることができた。夏季休業の閉庁日については10日、冬季休業の閉庁日については3日設定し、実施することができた。

取組内容③年間3回の読書週間を計画通り行うことができた。また、図書館ボランティアや地域の読み聞かせ隊とも連携することで、子どもたちの読書活動が豊かなものとなった。また、児童の読書への意欲を高めるために、学年に応じた読書カードを活用して、読んだ本を記録する取り組みを実施した。読書カードは家庭との共有を図り、「大阪市子ども読書活動推進計画」の周知とともに、読書活動の充実につなげることができた。

取組内容④「学校図書館やその蔵書を活用した授業を年1回以上行う」という指標に対しては、全学年がおおむね行うことができた。不定期ではあるが、調べ学習など、図書の活用を必要とする単元に合わせて、学校図書館の利用や学級貸し出しの活用を行うことができた。また、学級用貸出ボックスを活用し、学級で読む本を充実させることができた。

今後の学校運営への改善点

中期目標（年度目標）

○心の天気の入力やタイピング練習、調べ学習など、様々な場面での活用を継続していく。

○【取組内容②】参照

○大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①次年度も、学年の実態に応じた系統的なプログラミング学習に取り組めるように、計画立てて進めていく。学習の進め方やロボット教材の使い方など、さらに教職員同士での共有を図っていく。

取組内容②教職員の教育活動への日々の取り組みの中で、業務量と勤務時間にはばらつきができるので、校務の整理と日常業務の精選をすすめ、さらに教職員一人ひとりが休暇等を取得しやすい体制を整える必要がある。また、今年度は2学期開始時点より教職員の指導体制に改善があったが、2月初旬まで指導体制に人的な不足が生じる状態であったため、次年度に向けて指導体制の充実が図られるよう、働きかけを継続していく。

取組内容③次年度も読書に親しむことができるような読書週間の取り組みを実施していく。図書館補助員や図書ボランティアとも一緒に取り組めるよう、工夫していく。図書館だよりなどを通して「大阪市子ども読書活動推進計画」の取り組みの周知を図っていく。また、読書カードを活用して、児童の読書活動の交流ができるよう取り組んでいく。

取組内容④次年度も学校図書館や市立図書館の蔵書を活用した授業を行っていく。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東井高野小学校学校協議会

1 総括についての評価

大阪市小学校学力経年調査の結果や、学校評価アンケート（児童・保護者）から細かな分析をしており、学校が子どもたち一人ひとりを大切にされた教育活動を推進していることを理解することができた。今年度も学校協議会を計画通りに3回開催でき、学校運営に大いに参画することができた。本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。来年度は、新たな教育振興基本計画のもとで学校の特性をいかした取り組みをすすめてもらいたい。

- 【安全・安心な教育の推進】では、学校の年度目標は概ね達成された。いじめや不登校への対策を始めとした、児童にとって「安全・安心な教育」の推進は重要な課題であり、今後も重点的に取り組んでほしい。また、自己肯定感が低い児童へのフォローにも期待する。
- 【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、学校の年度目標は概ね達成された。本来家庭が担うべき体力・健康面についても、学校が主体的に取組みを推進してことはありがたい。学習面においても、ICT機器の効果的な活用などを通して授業改善を図るとともに、家庭学習の充実についても推進してほしい。
- 【学びを支える教育環境の充実】では、学校の年度目標は概ね達成された。教職員の働き方が、真にゆとりのあるものになっているかを、勤務時間のみにとらわれることなく、業務内容の見直しや教育現場のニーズに合った人員構成となっているかなど、さまざまな角度から検証し、学校の活性化につなげていただきたい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査87.3%)以上にする。

- 学校の年度目標の達成状況の評価に関しては妥当である。
- いじめ、不登校対策としての実態把握（心の天気、アセス）と学校での対応については、組織的な対策が行われていると理解できる。
- 安全教育の推進については、発達段階に応じたきめ細やかな指導を期待したい。
- 児童の自尊感情や自己肯定感については高い水準を保っており、たて割り班活動などの豊かな体験を積み重ねていることがうかがえる。定量的な指標に加え、定性的な評価の観点をもつことで、児童の実態に即した、取組の達成状況を知ることができるのではないかと。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合100%をめざす。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査59.6%)以上にする。
- 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査73.9%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年

度(昨年度同調査 98.5%)水準を維持する。

- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 95.5%)水準を維持する。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査 96.9%)水準を維持する。

- 学校の年度目標の達成状況の評価に関しては妥当である。
- 主体的・対話的で深い学びについては、答えがない学習内容が増えたこともあり、重要な学びであるが、指導者が学びの着地点を予め持つておくことが重要であると考えます。
- 児童の学びに向かう姿勢を高める「プラスノート」の取り組みにおいて、アンケート結果より学校でも継続した取り組みの成果が表れていると評価できる。自主学習においては、家庭との連携が必要不可欠であるため、家庭への啓発もお願いしたい。
- 健康教育・食育の項目に関しては、日々の取り組みの成果が良好なアンケート結果に反映されており評価できる。健康や食育に関しては、家庭との連携が不可欠なので、学校からの啓発にも期待したい。また、PTA との連携も検討されたい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和7年度全市計画目標(80%)以上にする。

- 学校の年度目標の達成状況の評価に関してはおおむね妥当である。
- タイピングへの取り組み等を含め、学習者用端末が効果的に活用されていることが確認できた。一方で、児童の視力低下など ICT 機器を活用する上でのデメリットについても、しっかりと検証していただきたい。
- 教員の働き方改革については、学校現場に人が足りていないという現実がスタートラインである。人的にゆとりのある学校組織となるよう、国、市が危機感をもってスピーディーに取り組んでくれることを切に願う。
- 学校図書館やその蔵書を活用において、地域の読み聞かせ隊・学校図書館司書・図書委員会児童による読み聞かせなど、本に親しむ機会が多く、いい取り組みである。スマホ全盛の今、家庭も巻き込み図書を含む紙媒体の良さの再認識をする時期が来ているのではないかと。

3 今後の学校の運営についての意見

- 今年度、学校協議会は計画通り3回開催できた。学校協議会では「運営に関する計画」をもとに、委員の活発な意見交換を行うことができ、学校への運営に大いに参画できた。
- 不登校、いじめに関する情報共有を行うことで、地域としてできることを一緒に考え、子どもの健やかな成長に資する取り組みを今後も進めていきたい。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果からも、数値化できない意欲面も体力の向上には欠かせないことが明らかである。今後も学校と連携し、体力や健康の増進への取り組みを推進したい。
- 学校評価に際し、数値化できないものについては、児童の実態に即した適切な評価を行うように工夫していただきたい。
- 学校運営に関して適宜、意見具申を行い学校・教職員を支えていきたい。